一般的な原稿用紙の使い方の例

①　たのしかったえんそく

②小二　山本あきら

③五月二十二日に、④ほしゅう校のえんそくがありました。⑪朝、カーテンをあけると、明るい光がさしこんできました。おとうさんが、

⑧「きょうは、すばらしいえんそくびよりだ。」⑥

⑨と、気もちよさそうに言いました。

③おかあさんも、楽しそうに言いました。

「青空の下で食べるおべんとうは、おいしいわよ。」⑤⑩

③やちょう公園には、ほんとうにたくさんの鳥がいました。⑪ぼくたち五人のなかま（Bグループ）は、⑫『鳥のいろいろいろ』という本を見ながら公園の中をひとまわりしました。⑥

そのあと、じぶんのすきな鳥をしゃせいすることにしました。

---

①　題は、三ますあけて書く。
（題の長さにより二ますになったり四ますになったりしてもよい）

②　二行目に学年と名前を書く。☆長い名前の人は二行に分けて書く。

③　書き出しや段落の始まりは、一ますあける。

④　区切り符号
ア　次の区切り符号は、一ます使う。

、	てん（読点　とうてん）
。	まる（句点　くてん）
「　」	かぎ（かぎかっこ）
（　）	かっこ
『　』	ふたえかぎ（ふたえかぎかっこ・にじゅうかぎかっこ）
？	クエスチョンマーク（疑問符　ぎもんふ） ただし、使うのは会話文の中だけ
！	エクスクラメーション（感嘆符　かんたんふ）は使わない

イ　次の線は、二ます使う。

――	ダッシュ（中線）
……	てんせん（点線）

⑤　会話をとじるときは「　」と　。　を一ますの中に書く。（ますの上半分に両方を書く。）

⑥　、　。　」　）　』　などがいちばん上のますにきてしまうときは、前の行の最後のますに書く。

⑦　「　（　『　などがいちばん下のますにきてしまうときは、次の一文字をいっしょに書く。

⑧　会話文は、いちばん上のますに「を書き、二ますめから文字を書く。

⑨　会話を、助詞の「と」で受けるときは、いちばん上のますから書く。

⑩　会話が二行以上になるときは、いちばん上のますをあけて書く。（中学生以上はいちばん上のますをあけないのが一般的）

⑪　数字は、漢数字（一・二・三・・・九・十）を使う。

⑫　本の名前は、『　』（ふたえかぎ）を使う。

⑬　その他
ア　英語を横書きするときは、大文字は一ますに一字、小文字は一ますに二字書く。
イ　二枚以上のときは、ナンバーをうつ。